

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月28日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 有意義な高校生活を送ることができるよう教育課程編成に工夫を凝らし、自ら学ぶ態度と、基礎学力の習得及び希望進路の実現に向けた学力向上に取り組む。</p> <p>(2) 生徒の『主体的・対話的で深い学び』につながる授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) 『学び直し』の科目と『総合的な探究の時間』の在り方について検討し、教材作成に取り組む。</p> <p>(2) 組織的な授業改善により、授業の質の向上とともに教材の検証を図る。</p>	<p>(1) プロジェクトチームを編成し、『総合的な探究の時間』の目標に沿って、キャリア教育と関連させ構築する。『学び直し』科目の全体像の検討とそれに基づいた教材の見直しと評価方法等を検討する。</p> <p>(2) 生徒の『主体的・対話的で深い学び』を実現できる具体的なテーマを定めてチームで授業づくりを実践し、教材の検証等も含み、職員全体で協議する。</p>	<p>(1) 『総合的な探究の時間』はキャリア教育と関連させて構築することができたか。『学び直し』科目の全体像の検討とそれに基づいた教材の見直しと評価方法を検討できたか。</p> <p>(2) 年間を通して、生徒の『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業づくりが行われたか。生徒による授業評価アンケートで「授業の中でできるようになったことを実感することができた」が80%以上の肯定評価がなされたか。</p>	<p>(1) 『総合的な探究の時間』はキャリア教育の全体像の見直しを行い、各学年の年間計画を策定し、評価方法を2段階とした。『学び直し科目』の全体像を検討し、主に1年生の教材と評価方法の見直しを行った。</p> <p>(2) ICT 利用を工夫することで生徒の発話のみに限らない『主体的・対話的な学び』の実践につながった。授業評価アンケートでは多くの科目で80%以上の肯定評価がなされた。</p>	<p>(1) 『総合的な探究の時間』の1年生の年間教育内容はほぼ完成したので、今後は2・3年生の計画の詳細を検討し完成させる。『学び直し科目』では、2・3年生での教材と評価方法の見直しを検討する。</p> <p>(2) ICT 利用での授業改善の知恵を共有しやすい環境づくりを目指す。教養科目の授業づくりの場を定期的に設けられるよう検討する。授業評価を職員で共有して個別の授業改善以外の視点でも検討する。</p>	<p>(1) 学び直し科目を1年生中心に取り組んでいるのは大いに評価できる。2・3年生でも学び直し学習を継続していったほしい。</p> <p>(2) ICT を活用することのメリット・デメリットを検証してほしい。 ・生徒による授業評価アンケートで「授業の中でできるようになったことを実感することができた」が80%以上の肯定評価がなされたが、残り20%に対してもぜひ改善してほしい。</p>	<p>(1) 『総合的な探究の時間』は身に付けさせたい力を学年ごとに定め、これまでの教育活動を再評価しキャリア教育と関連させて再構築することができた。『学び直し』科目は育てたい生徒像を意識し教育内容を充実させることができた。生徒自身に学習成果を実感させ自己肯定感を高めるための方策を検討する必要がある。</p> <p>(2) ICT を活用した授業が定着し、生徒の学力向上を目指した授業方法に工夫が見られた。今までに得られた知見を集約して対面が適した学習内容を吟味し、更に授業評価の向上を目指す。</p>	<p>(1) 新教育課程導入を機に次年度入学生から基礎力診断テストを2回実施すると同時に、その意義を生徒に説明し、学びの成果を生徒自身が振り返る機会とする。</p> <p>(2) 一人一台端末導入により、一層ICTを活用した授業づくりをすすめ、コンピューターやソフトウェアを使い生徒に互いの意見や作品などを共有させたりするなど効果的な学習法を研究する。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>(1) 規範意識・社会性を涵養し、自らの判断で社会的な行動をとれる生徒の育成を目指す。</p> <p>(2) 個に応じた生徒指導・支援を充実させる。</p>	<p>(1) 集団指導および個別の指導により、社会のマナーやルールを守り、公共の場で常識的な振る舞いができる生徒を育成する。</p> <p>(2) 個々の生徒の理解に努め、それらに合った支援策を実践していく。</p>	<p>(1) ・SSE (ソーシャルスキルエデュケーション)の授業でのエクササイズ体験等により、自他を尊重する気持ちと社会性を涵養する。 ・様々な場面で、公共マナーの遵守を呼びかける。 ・学年指導、特別指導において個々の問題に応じた指導を心がける。</p> <p>(2) ・個に応じた生徒の支援をチームとして対応し、関係職員間で生徒の個別理解と情報共有を行う。 ・SC, SSW, 多文化教育コーディネーターなどの専門性を活かした生徒支援を行う。</p>	<p>(1) ・効果的にSSEを実施できたか。また、SSEの実践を通じて職員の理解が深まったか。 ・様々な場面で、公共マナーについて呼びかけられたか。 ・学年指導、特別指導において個々の問題に応じた指導ができたか。</p> <p>(2) ・生徒が抱える課題を関係職員で情報共有できたか。 ・支援をチームとして行うことができたか。</p>	<p>(1) ・SSE については担当者による事前の検討、さらに学年で検討し、プログラムを精選したことにより、職員の意識が高まり効果的に実施できた。 ・公共マナーについては、学年・全校集会を通じて繰り返し呼びかけられた。 (2) ・職員会議で気になる生徒の情報を全職員で共有した。 ・個々の生徒が抱える問題と向き合い、それぞれに応じた、考えられる最も適切な対応をチームとして模索して善処できた。 ・SC, SSW 等の専門家と密に連携し、区の担当部署とケース会議を行うなど生徒支援ができた。</p>	<p>(1) ・今後もさらに効果的なSSEプログラムの開発を目指して、専門家と実施者意見交換を活発にしていく。また、SSEの職員研修は感染症予防対策のため今年度実施できなかった。次年度は、SSEのプログラムを職員で作成する、プログラムを生徒の立場で受ける、などの体験的な研修を行うことを目指す。 ・一部の生徒が公共のマナーを守れていない。今後も様々な場面でマナー意識の涵養に努める。</p> <p>(2) 校内支援体制と校外の施設等との連携をさらに進めて生徒の支援に取り組む。学校全体としてすべての職員が支援の必要に、さらなる情報共有を進めていく。</p>	<p>(1) ・職員の生徒への関わり方が参考になる。自分の学校でもSSEを取り入れたい。 ・SSEは釜利谷が発祥なので是非、売りにしてほしい。 ・家庭でも十分見ている、話し合いたい内容である。 ・来校時には率先して挨拶してくれる生徒もいてよい印象を受けた。公共の場でのマナーなど家庭でも指導するが学校でもお願いしたい。</p> <p>(2) プライバシーにかかわり、対応が難しいところもあるが、引き続き、気にかけてほしい。</p>	<p>(1) ・県のHPに掲載されたことにより本校のSSEの見学者が増加した。職員の工夫により、SSEのプログラムを効果的に実施することができた。今後、職員自らがプログラムを作成していくことが望ましい。職員研修についても、専門家の協力のもと、充実させていく。生徒の社会性の涵養については、職員一致して指導と呼びかけができた。今後も粘り強く指導していく。</p> <p>(2) SC, SSW との情報交換を密に行い、一人一人に寄り添った、きめ細かな支援をすることができた。支援の必要な生徒の案件が多く、対応に追いつかないケースもあった。</p>	<p>(1) 今後も専門家である大学の先生と連携し、職員研修を充実させ、より一層SSEの効果を高める。生徒の公共マナーについては、個別に対応すると同時に集会等の機会を使って指導して粘り強く指導していく。</p> <p>(2) 学校全体としてすべての職員が必要な生徒に係れるように、さらなる情報交換・情報共有を進める。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月28日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	(1)3年間を見通した計画的な進路指導の実践により、生徒一人ひとりの進路希望の実現を支援する。 (2)生徒活動の自主性・主体性を重視することで、生徒が自律的に自立できることをめざす。	(1)各学年の進路目標に合わせた年間計画を作成する。 (2)クラス交流会・文化祭等の生徒が主体となる行事運営を通して、自律性・リーダー性を育むとともに、生徒間の親睦を深め、達成感、自己肯定感を高める。	(1)各学年の進路目標を達成するためのガイダンスや講演会等を計画する。 (2)生徒が主体的に行事に取り組めるように教員が支援する。	(1)ガイダンスや講演会等が、適切な時期に適切な内容で計画できたか。 (2)生徒が主体的に行事運営を進められたか。行事後に行う生徒アンケートで「達成感、自己肯定感が高まった」の肯定評価が80%以上達成できたか。	(1)今年度も新型コロナウイルス感染症の影響があり、時期等の変更があったが、オンラインを活用する形式のガイダンスや講演会に対応することができた。 (2)昨年に引き続き今年度も文化祭を中止とした。代替行事として、芸術鑑賞・Culture Weekを生徒会生徒と話し合っ、企画・実施した。また、クラス交流会では、新種目としてポッチャ・インディアカなどを取り入れて行った。行事後のアンケートの評価は、予想以上に高評価であり、ある程度の充実感を感じさせることができた。	(1)今年度の状況を参考にしながら、対面形式とオンライン形式の良いところを組み合わせるように、各ガイダンスや講演会の時期を設定する。 (2)感染状況からすれば仕方ないとはいえ、生徒にとって文化祭は自分たちが主体となる大きな行事であり、実現に向けて進めていきたい。生徒主体の行事作りという点では、目標は充分には達せられていない。生徒会役員生徒との対話を進めることで、さらに生徒が自分たちで、生徒主体の行事を企画運営できるよう、指導を進めたい。	(1)・進路指導の重要性がよくわかった3年間だった。 ・保護者面談は年1回だが、希望者には複数回実施してほしい。 (2)・クラス交流会はもう少しPTAも参加できたのではないかと思う。(参加賞のようなものを配付する等) ・行事の中止は仕方ないが、心のケアも考えてもらえるとうい。	(1)進路未決定者が12.3%で昨年より2%減少させることができた。女子の未決定者が多い。 (2)コロナ禍で活動・行事が制限される中、できることを追求して、対応することができ、生徒たちにも概ね好評であったが、文化祭については2年のブランクができた。次年度、スムーズな運営ができるよう学校全体で取り組んでいきたい。	(1)『総合的な探究の時間』において主体的に進路情報を収集させ進路希望を実現させる。 (2)文化祭の経験者が生徒にも教員にも少なくなっている。すべてが中止前と同様にできるとは考えず、どんなことができるのかを精選して運営していきたい。
4 地域等との協働	学校と地域相互の教育力を生かし、地域と連携した学校づくりを推進する。	(1)本校の活動や取組など、「今の釜利谷」を広く地域に発信する。 (2)地域社会との協働を図る。教育活動において、PTAと持続可能な連携を行う。	(1)学校HPの項目をわかりやすく整理し、行事が行われるたびに、頻繁に更新する。 (2)釜利谷サポートチームや生徒会、部活動の生徒が参画し学びを通して地域社会等との連携・協働を図る。 ・PTA活動を広く周知し、持続可能な連携を行う。	(1)学校HPの項目をわかりやすく整理し、職員にHPへの掲載を呼びかけ、随時更新できたか。 (2)学びを通して家庭、地域との協働ができたか。	(1)行事も少なく、各グループへの掲載依頼がなかなかできなかったが、校長通信を通して、日常の授業風景等、日々の教育活動を伝えることができた。 (2)合同清掃等、PTAと生徒が連携して活動する機会があったが、地域との連携までは至らなかった。	(1)ICT支援員と協力し、HPの更新に努める。また、来年度の夏の学校説明会を校内で実施し、動画の配信等も行い、本校の特色や様子を理解してもらおうよう努める。 (2)校内の行事に地域の方を招待する等、交流できる機会を設ける。	(1)・校長通信等、HPの更新は頻繁でよかったが、年間、月間行事予定が更新されていなかった。 ・広報誌を配付して本校を知ってもらおうのがよい。 (2)・コロナ禍で地域の方たちとの連携はかなり難しかったと思う。 ・合同清掃、花の植え替え等は広く募集できないか。近所の卒業生が参加できる機会などあったらどうか。	(1)行事が減った分日常の様子等をHPに掲載することができた。また、学校説明会ではサポートチームの活躍の場を多く設け、広報活動に貢献できた。 (2)コロナの影響で、例年実施していた地域との連携は全くできなかった。	(1)行事等の掲載場所を全職員に周知することで、HPを活用した広報活動を充実させる。 (2)生徒が主体的に校外での地域貢献活動ができるよう、地域のニーズを把握する。
5 学校管理 学校運営	すべての職員が職場環境を含めた様々な変化に対応し、積極的に取り組める持続可能な組織づくりをすすめていく。	(1)学校全体で教育環境に対する課題を共有し、組織的・計画的に改善していく体制を整える。 (2)教員の「働き方改革」を推進しながら、生徒と向きあう時間の確保をはかる。	(1)施設設備を適正に管理する。特にICT環境を整え、校務の効率化を図る。また、安全安心で円滑な学校生活を送れるような校内環境を維持する。防災対策の充実を図る。 (2)勤務時間内の会議の徹底を図る。そのための事前準備や情報共有の工夫をする。	(1)施設設備を適正に管理したか。ICT環境を整え、校務の効率化は図られたか。実態にあった防災訓練ができたか。 (2)勤務時間に会議を終えることができたか。	(1)・コロナの影響もあり、オンライン授業の必要性からICT環境の整備が進んだ。また、感染防止の観点により、網戸の設置、空気清浄機の購入、業者によるトイレ清掃等、校内の衛生環境の充実を図ることができた。 ・防災訓練は学年ごとに体育館に避難した。 (2)コロナの感染拡大による対応により会議が増えた。	(1)・一人一台パソコンの利用などに伴うさらなるICT環境の整備とセキュリティの充実をICT推進プロジェクトチームを中心に進めていく。 ・グラウンドに避難する訓練はできなかった。 (2)学校全体を通じて仕事のスリム化をできる限りすすめていく。	(1)・PTA会議室内のICT環境も徐々に整備してほしい。 ・PTA役員会もオンライン会議を活用することで情報共有ができた。 ・教職員の働き方も考えるタイミングだと思う。既存の慣習を変えることは難しいかもしれないが、それが活動の妨げになっている場合もあるので、少しでも改善の方向で考えてほしい。	(1)昨年度に継続して始業式や集会等を全クラスでオンラインの実施が定着した。また学校説明会もオンラインを利用することで密を避けることができた。本年度もプロジェクトを設置する教室を増やすことで充実を図った。 (2)企画会議等、勤務時間内に会議を終えることができなかった。	(1)・一人一台のPC等の導入を進めていく中で授業をはじめLHRなどさらなる活用の指針を図っていく。 ・新型コロナウイルス感染防止はもちろん教室等の環境整備をすすめていく。 (2)効率的に会議を設定する。